

デジタル活用共生社会実現会議
ICT地域コミュニティ創造部会（第4回）

1 日時

平成31年2月26日（火）9時30分～11時30分

2 場所

総務省 10階 総務省第1会議室

3 出席者

(1) 構成員（敬称略）

安念潤司部会長、有木節二構成員、今井正道構成員（岩井構成員代理）、上村忠男構成員、紀伊肇構成員（武藤構成員代理）、近藤則子構成員、澁谷年史構成員（治良構成員代理）、鈴木一光構成員（阿南構成員代理）、瀬戸りか構成員、藤咲宏臣構成員、松岡萬里野構成員、御手洗裕己構成員

(2) オブザーバー

経済産業省情報産業課、文部科学省地域学習推進課、総務省地域通信振興課、地域振興室

(3) プレゼンター

川根本町地域ICTクラブ推進協議会、こどもプログラミング協議会、新座IoT学び推進協議会

(4) 総務省

安藤英作大臣官房総括審議官、赤澤公省情報流通行政局審議官、犬童周作情報流通振興課長、田村卓也情報活用支援室長

4 議事要旨

(1) プレゼンテーション（デジタル活用支援員関係）

【Apple Japan, Inc. から機器・事例等の紹介】

Apple製品のアクセシビリティの考え方、機能について説明があった。Apple製品は、パーソナルなデバイスを全ての人が使えるように設計されており、障がいのある方から高齢の

方まで使いやすい機能が備わっていることや事例について紹介があった。

(2) プレゼンテーション（地域ICTクラブ関係）

【安念部会長】 それでは、議事（2）、第2部でございます。地域ICTクラブに関するプレゼンテーションに移ります。

総務省事業、地域におけるIoTの学び推進事業でございますが、これを受託して、実際に地域ICTクラブを構築、運営しておられる3つの団体の方、川根本町地域ICTクラブ推進協議会の堤様、福井県子どもプログラミング協議会の福野様、新座市子育てネットワークの坂本様より、それぞれ15分ずつご説明をいただくことになります。大変恐縮でございますが、15分たちましたら、ご参考までに、事務局が一度ベルを鳴らしますので、よろしくお願いいたします。

カメラ撮りの方はいらっしゃいませんね。

それでは、早速でございますが、川根本町地域ICTクラブ推進協議会の堤様からお願いできますか。どうぞ、よろしくお願いいたします。

(ア) 川根本町地域ICTクラブ推進協議会より資料4-1に基づき地域ICTクラブ関係について説明が行われ、以下の質疑が行われた。

【安念部会長】 堤さん、どうもありがとうございました。

それでは、何かご質問がありましたら。

私から1点。私も北海道の過疎地で生まれ育ったものですから、何となく感覚はわかるんですけれども、過疎地は大体無駄に面積が広いんですよね。平日の夜なさいているとなると、子供さんがそもそも通えないとか、夜道が怖いとか、送り迎えの保護者の方がなかなか見つからないとか、そういった問題は起きませんか。

【川根本町地域ICTクラブ推進協議会（堤）】 基本、先ほど言ったように、面積が広くて、今回、南部、北部、会場を設けておりますけれども、やっぱり片道10分、15分とか、車でもかかるようなお子さんが多かったということで、もともと送り迎えの文化というか、そもそも公共交通機関がない地域で、どんな活動をするにも親御さんの送り迎えが必要な地域ということで、今回、これをやるに当たっても、送り迎えすることを前提で親御さんも考えていらっしゃるということで、そういった部分では、特段、問題はなかったかなと思います。

土日の開催とかもいろいろ考えたんですが、やはり子供たち、非常に忙しくて、中学生では部活動があるとか、いろんな形で予定が入っている方もいらっしゃるし、親御さんの都合等も考えて、週の真ん中の水曜日あたり、部活がない曜日でもあったものですか、そういった日を選んで設定させていただいたということでございます。

【安念部会長】 部活とのバッティングって結構な問題ですね。よくわかりました。なるほどなと思いました。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

【有木構成員】 取り組み、大変いろんなことを活用されてやっていらっしゃるというのを伺いまして、それでご質問させていただきたいのは、多分まだ成果発表というのをやってらっしゃらないとすれば、今後、どういうふうなことをイメージとして企画されているのかということをお聞きしたいんですね。

というのは、やはり教える側のメンターさんにとっても、教わっている生徒さんにとっても、何か成果をどこかで確認できることによって、お互いに達成感というか、そういうものが起こってくると思うので、次年度以降にはちゃんと計画としてあって、競技会というのも書いてあるので、そういうことでうまく活性化していけば、喜びもあるし、教える側も楽しみ、もしくはやりがいもあるということがうまく回っていくのかなと想像するんですが、やはり1年、もしくはプログラムをやられたことの達成をどういうふうに感じさせるかとても重要だと思うんですね。ですから、やられていればどういうことをやられたか、もしくは、やられてなければ、どういうことを今お考えになっていらっしゃるかというのをお聞きできればと思います。

【川根本町地域ICTクラブ推進協議会(堤)】 今おっしゃられたように、メンターの方もほぼ全員がプログラミング自体やったことのない方であったということ、子供自身も、今学校でも、去年、おとしとか、子供たち対象のプログラムをやってきてはいるんですが、なかなかまだ触れる機会自体が少ないということで、なかなかレベルアップにはつながっていない。

今回の講座の中でも、先ほど言ったように、好きな教材を選んで自由に遊ぶという感覚。それと、時間についても、自分の都合に合わせて来ていただくという形で、どうしても皆さん、同じレベルで、1つのレベルに引き上げていくという形の講座のやり方はなかなか難しかったということ。

特に、今回、未就学児が結構多くて、どうしてもプログラミングということよりも、ま

ずタブレットに触ってもらおうとか、絵を描いてもらおうということが中心の講座になってしまったものですから、そういった面でプログラミングの知識であるとか技術を学ぶという部分では、内容的には薄かったのかなというところがございます。

9月から各6回ずつ講座をやって、最後、12月に成果発表の場として、最終回の講座は、各自がそれぞれ発表する場を設けて、特にスクラッチを中心に学んだ子たちは、自分がつくったゲームとか、ビスケットを学んだ子については、クレーンゲームの成果を見せるとか、1人ずつプロジェクターで映しながら、自分がつくった作品の紹介と説明を1人ずつしてもらおうような形にさせていただいて、そのほか、なかなか発表まで難しい子たちは、先ほど線のコース上をロボットが動くものがあつたと思うんですが、その線上にいろいろと、次の角になったら右に曲がるとか左に曲がるかという命令を出して、どれだけ早くゴールまでたどり着くかという形のレースゲームというか、そういったものを最後みんなでやったりとか、そういった形で、自分が考えてつくったものによって、ロボットなりがどうやって動くという、そういったものも覚えてもらおうというか、そういった形で成果を出してもらおうような形の発表会は最後にはさせていただいております。

もともとこの事業に応募したときも、将来的には、EV3の全国的なコンテストとか競技会みたいなものにも参加することを将来的な目標として掲げて応募させていただいておりますので、そういったところにも次年度以降、参加できるレベルまで、ある程度、一定の目標をまず設定した上で、知識とかを高めていただくような講座の持ち方も考えていきたいと考えております。

【安念部会長】 ありがとうございました。では、松岡さん、どうぞ。

【松岡構成員】 19ページの次年度計画の中に、サポーターとして児童生徒の保護者を登用となっておりますが、今学んでいるときには、保護者の方も一緒に実態的には学んでいるという形でしょうか。

【川根本町地域ICTクラブ推進協議会(堤)】 そうですね。特に小さいお子さんが多かったということで、送り迎えしてそのままその会場にいて、子供と一緒に楽しんで学ぶという方が多かったという事情はございまして、特にサポーターという意味での参加というのは、今回は、できれば保護者の方には会場の設営ぐらいは手伝っていただけるような形に持っていきたいなと思ってたんですけど、サポーターとして登録していただきたいということで周知はしたんですが、手を挙げる方がいらっしやらないものですから、まずは会場の中で一緒に楽しんでもらうということを基本に活動は行っております。

【安念部会長】 よろしいですか。瀬戸さん、どうぞ。

【瀬戸構成員】 私も女性の会をやっていて、よく成果は成果はと最後言われるんですけども、今回、高齢者の方と子供たちが触れ合うというところですごくいいなと思ったので、どれぐらいの人と子供を教えたのかとか、そういうのが成果報告の1指針になってもいいかなと思ったんですけど、そういうところに入っている感じですか。私もそういうことをやろうかなと思いました。

【川根本町地域ICTクラブ推進協議会（堤）】 人数的な？

【瀬戸構成員】 人数とかじゃないんですけども、高齢者の方が子供5人に教えたよとか、そういうのが成果報告になっていくといいなと思いました。

【川根本町地域ICTクラブ推進協議会（堤）】 今回、特にメンターさんのレベルという面ではなかなか難しい面があって、当初は、1回の講座に例えば20人出るのであれば、4人ぐらいのメンターさんをお願いして、5人ずつぐらい見てもらおうという、最初はそういうつもりでいたんですけども、なかなかそのレベルまではちょっと難しいなというところがあって、メンターさんも、メンターの講座ももちろんやってるんですけど、その講座だけではなかなか難しかったので、子供たち対象の講座の中でも、自分も一緒に子供と学んで知識を高めていくという方法をとったものですから、メンターさんも、できるだけ、全回、出られる方は出てくださいという形でやったので、いろんな教材があるものですから、教材、1つずつ回りながら、メンターさんも子供と一緒に学んでいったという形になります。特に会場、南部、北部でかなり人数のばらつきがあって、北部会場はかなり人数が少なく、逆にメンターの数のほうが多いということもあったものですから、そういった人数の割り当てというか配置も次年度以降の課題かなと考えております。

【瀬戸構成員】 そうですね。1人だったのが次の年は2人になってとか、そういうのが増えていくのが成果で見えたら、それが成果になればいいなと思いました。

【川根本町地域ICTクラブ推進協議会（堤）】 ありがとうございます。

【安念部会長】 ありがとうございます。成果にもいろいろあるんでしょうな。

それでは、続いて、福井県子どもプログラミング協議会の福野様をお願いしたいと存じます。

(イ) 福井県子どもプログラミング協議会より資料4-2に基づき地域ICTクラブ関係について説明が行われ、以下の質疑が行われた。

【安念部会長】 福野さん、どうもありがとうございました。

それでは、とりあえず何かご質問がありましたらどうぞ。

【近藤構成員】 今、パソコン5,000円とおっしゃったのですが、聞き間違いでしょうか。

【福井県子どもプログラミング協議会（福野）】 パソコン5,000円というのは、IchigoJamが約1,500円で、キーボードが600円で、ディスプレイが1,000円で、そのほかもろもろケーブルを入れても5,000円しないという計算です。

【近藤構成員】 ありがとうございました。

【福井県子どもプログラミング協議会（福野）】 今回はロボットキットということで、五、六千円ぐらいのロボットキットも合わせて、1人当たり1万円ちょっとという形で予算を組ませていただいております。

【安念部会長】 わかりました。ありがとうございました。ほかにいかがですか。

では、また後で振り返っていただきましょうか。福野さん、とりあえずありがとうございました。さっきのドローンの話？

【福井県子どもプログラミング協議会（福野）】 （ドローンの実演）今、自動運転で飛びます。前に行って、その辺でぐるっとUターンして、回旋して帰ってくるという感じで。こういうことが目の前で動いて、それが子供たちがつくったんだよという感動するんですね。という意味では、簡単なロボットを子供たちにつくらせて、eスポーツをはやらせたいなと思っています。

【安念部会長】 ありがとうございました。

では、とりあえず続いてお願いいたします。新座市子育てネットワークの坂本様にお願いしたいと存じます。

(ウ) 新座IoTの学び推進協議会より資料4-3に基づき地域ICTクラブ関係について説明が行われ、以下の質疑が行われた。

以上でございます。

【安念部会長】 どうもありがとうございました。

それでは、とりあえずのご質問がありましたらどうぞ。

【上村構成員】 児童センター等を活用してということで大変いいなと思っているんですが、1つお聞きしたいのは、例えば協議会をつくる、そのときにはどうしても近隣の短大とか大学なり、いろんな高校なり、それから企業なり、そういった部分の協力を得ないといけないと思うんですが、その協力を得るときには、どういう形で協力依頼とかされたんでしょうか。

【新座IoTの学び推進協議会(坂本)】 ご説明したように、既にほかの事業で連携した実績がありましたので、個別に実はこういう事業の募集があつて応募したいので、ぜひ実現したらご協力をお願いしたいということで、担当者のところにプレゼンテーションとか、こんな内容でやりたいんだということを簡単な紙面でお持ちしながらご説明をして、では、具体的にうちは何をすればいいんですかというお話に必ずなりますので、教育委員会であれば、全部の小学校の子供たちに、この事業のチャンスを提供したいんだということで、全部の小学校にチラシをまいたりしたいので、そのとき、学校がまきますので、校長先生たちのご理解を図っていただきたいとか、あと、先生方を対象にしたメンター講習というのを実は1回やってるんですね。この取り組みに関しては、教育現場の先生方、非常に不安もお持ちで、意識を持っていらっしゃる方もいらっしゃいますので、そういった方にとっては非常に響いたという、さまざまな分野の温度が上がっていたというところがありますので、ご理解いただけて、ご協力もいただけたかなと思います。

あと、企業さんは、やはり社会貢献の枠ということでお願いをしに行きました。技術高校も、今回のメンター養成のプログラムで生徒さんに指導していただきたいというところでは、技術的な指導はできるけれども、子供がこういう体験をすることの意味とか、現場の様子みたいなことは、僕らでは話し切れないから、児童館の職員さんを派遣してくださいみたいなお話があつて行きました。ですので、1軒ずつ丁寧に、どのようなことを私たちは期待しているのか、社会的にこの取り組みに協力していただくことにどのような意味がこの地域にとってあるのかということをお話しさせていただいたような状況です。

【上村構成員】 ありがとうございます。

【安念部会長】 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

【鈴木構成員代理(阿南)】 今日はありがとうございました。児童館の団体なので、内輪の質問みたいになってしまいますけれども、やはり合理的な配慮ですごく重要視されていく中で、インクルーシブなセミナーを行ったということがありましたけれども、具体的

に何か実際の講座の中での配慮というのを教えていただければと思います。

【新座 I o T の学び推進協議会 (坂本)】 申し込みの時点で配慮が必要なお子さんの場合は記入してくださいという、情報をいただくような申し込みフォームにしておりましたので、そこに書き込みのあったところに個別でお電話して、どのような特徴を持っていらっしゃるのか、自閉症スペクトラムといってもさまざまありますので、お子さんによって、みんな違うと言っていいくらい違いますので、それをうちで把握した後、そのお子さんが参加する際のクラブに、メンターさんにご説明しながらやっていったということですが、若干、飽きるのが早い子ぐらいの感じで、そんなに問題なかったです。やっぱり本人がやりたいくて来ているので、逆に、集中度みたいなものは高まる感じでした。

インクルーシブ研修をやったこともありますけれども、今回、募集に際して、広報紙にわりと丁寧にいろいろ書いて広報しましたので、それと広報する際に、市内の放課後デイという障害のあるお子さんが放課後過ごす事業所さんにもお配りしたんですね。その保護者さんがメンターさんに応募されてきたようなケースもありまして、そういったものの活用を、少し課題のあるお子さんに対して広げていきたいとか、課題のあるお子さんと日常過ごしていらっしゃるという方が参加されたということも大きかったと思います。固有の体験を全体にどう広げていくかということをしていったというくらいです。

【鈴木構成員代理 (阿南)】 ありがとうございます。

【安念部会長】 ありがとうございます。

それでは、私の取りさばきがいつもまずくて、10分ぐらいしか時間がないんですが、質問のようなディスカッションのようなものに緩やかに移行していきたいと思います。特に、地域 I C T クラブのガイドラインをつくるという仕事が先に控えておりますところから、今日伺いましたプレゼンの中から、ガイドラインをつくるということを念頭に置いてのご意見というものを承ることができれば幸いです、別にこういう項目を入れてくださいという、そういうご意見じゃなくてもいいんです。そういうことを念頭に置いてという意味でございます。

福野さん、どうぞ。

【福井県子どもプログラミング協議会 (福野)】 多分各地で問題かなと思っているのは参加費ですね。参加費徴収をどうするか。取らないと続けられない気もするんですけど、あまり取ると、普通のプログラムの講座と変わらなくなっちゃうし、この辺、どのような形で考えられているのかなというところを伺いたいです。ちなみに、うちはそんなに高く

ない金額を取りながら続けていくという方針でいます。

【安念部会長】 それは最大の論点の1つでしょうね。こうでなきゃならないというものがあわけじゃなくて、前回もたまたまご理解のある企業さんからご協賛をいただいてという事例のご紹介をいただきましたが、それはラッキーな話ですよ。国が全面的に面倒を見るとなると、これはこれでまた補助金事業みたいになってしまう。犬童さん、今の段階でのお考えはありますか。

【犬童課長】 立ち上げのときには、当然、今地域ICTクラブということで、モデル実証とかで援助はしているんですけども、いずれ自立をしていただかないといけないと思っていますので、今日、最後にご質問をいろいろしなきゃいけないかなと思っていました。新座市さんがおっしゃるように、運営コストをどうするか、一番最大のポイントでして、ガイドラインでどう書いていくかというのは大きいなと思います。

そこで、川根本町さんと福野さんと両方にご質問なのですが、川根本町さん、いろいろとコストはかけないよということ、場所代とかいろいろやってらっしゃるんですけど、これから運営していくに当たって、コストはどこにかかると思ってらっしゃるのか。多分、人件費とか、そういったところだろうと思うんですが、メンター、サポーターの人件費をどうするのかといったところを参加費ということで考えられているのか、それとも川根本町さんみたいに、皆さんが寄り合って活動されるようなところだったら、ボランティアベースでやっていただくような感じなのかというのが川根本町さんへの質問です。

それから、福野さんは、最優秀賞へノートPCと絵があるページですけど、ここでスポンサー企業みたいなのが書いてあって、見てると、まだスポンサー企業はこういう人材育成が必要だとわかっている企業ですよ。これから日本の会社の中に、おそらく今までICTの技術というのは外に委託とかアウトソースして、全く自社内では賄ってないようなところがほとんどだったんですけども、これからどちらかというと、自社内である程度、人材をつくっていくというトレンドになっていくというのが言われているんですね。

そうすると、今まで見向きもしなかった企業さんがこういったところに投資するという流れも、一方ではつくっていかなきゃいけない。そうすると、企業が求める人材はどんな人なのか、そこにどういう人材を育成していく必要があるのかということマッチングしなきゃいけないだろうなと思っているんですけど、そのあたり、福野さんはそういう活動をされているので、いろんな企業さんが福野さんだったらということ出てきてるんですけど、どんな印象を持たれていますか。全く今は気づいてない企業さんが、これから

はこういうところに気づいて、どんどん広告を出していくような感覚があるのかどうかというのを福野さんへの質問です。

【安念部会長】 では、堤さんからお願いします。

【川根本町地域ICTクラブ推進協議会（堤）】 今年度の講座も、もともとメンターさんも1回幾らという、ある程度、人件費的なものも確保しながらやっていたんですが、先ほども言ったように、1回当たり子供何人見ましょうという、もともとはそういう考え方でいたんですけども、どうしてもメンターさん、まだレベルアップも必要で、できるだけ出ていただいて、自分のレベルアップもしていただきたいというのが1つあったので、最終的には、なかなか回数も多くなってしまったので、人件費的なものもお支払いが難しいよということで、それは講座の途中で、もともと1回幾らお支払いしますという形ではお約束はしていなかったもので、講座の途中で、人数も多くなってしまったので、最終的には、お礼として幾ばくかのものはお渡しできますけどということで了解をいただいて参加いただいたということで、逆に、そんなのもともともらうつもりはないという方が、高齢者の方も多いということで、そういう方も多かったので、今年度については、1回幾らで町の商工会の商品券を渡して、町の経済の活性化にも役立つということで、そういった形で薄謝的な感じで物を渡してはいるんですけど。次年度以降についても、皆さんにはボランティアベースでご協力いただきたいということをお願いしていて、中には、謝礼ではなくて、報酬とか時間当たりの金額でもらいたいというメンターさんもいたんですけど、なかなかそれは厳しいということで、基本、ボランティアベースでやっていくことを考えています。

そもそも誰が主導して、今回は町が代表団体ということで自治体が主体となってやったという形になるんですが、現実問題として、そこにお金をかけるということも自治体としてなかなか難しいということで、何らかの形で今までは、講座の委託費用ですとか、そういった形で予算化をされたんですけど、次年度以降はなかなか厳しいということで、まずは、今年度、構成員としてご協力いただいた町内の企業さんに、CSRではないですけど、ある程度、社会貢献的な視点でご協力いただくということを前提でお話を進めていきたいなと考えておまして、構成員ではないんですが、協力いただいたゾーホージャパンさんが町内にサテライトオフィスを構えていて、さらに拠点を増やしていくということで、ゾーホーの社員の方も町内に宿舎をつくったりとか、拠点として皆さん、町内で活動していただける方が今後増えていくことが想定されていますので、もともとゾーホーさんは社会貢

献というところに力を入れて、川根本町では、自社のそういった、もともとの活動以外のものも積極的にやっていきたいということを考えていますので、そういったところをお願いして、できるだけ経費は少なくということ。

参加者の保護者の方にもアンケートを独自でとって、来年度幾らぐらいの負担なら参加いただけますかというアンケートも実際行って、月1,000円とか2,000円であればという答えが多かったんですけども、そういった形で参加費の徴収にも、ある程度なら同意いただけるかなというところは確認をとっておりますので、そういった形で進めていきたいと考えております。

【安念部会長】 ありがとうございます。福野さん、いかがですか。

【福井県子どもプログラミング協議会（福野）】 企業、e実業団というのがいいんじゃないかなと思って。eスポーツに参加する子供実業団みたいなものを、まず企業の社員の子供中心でいいと思うんですね。社員の子供中心に教えるよ。土日の会議室は余ってるので、しかも、きれいな会社がいっぱいありますから、これから公民館とかどんどん厳しくなる中で、土日はそういうところを使って遊ぼうよという形にしていくのがいいのかなという企業型地域ICTクラブというものも立ち上がっていくのではと思っています。

そのきっかけとして、IoT研修、結構、福井県でも人気なんですけど、まずIoT、大人もやりましょうよという形で始めて、教える、教わるではなくて、子供と一緒に教わり合うというか、教え合う関係というので、テニスサークルに行っているいろんな年代の人がいるみたいに、子供も大人も一緒にものづくりサークルという形でやると、みんな少しずつ何らかのお菓子代ぐらいの負担をしながら続くという、そういう関係で続くぐらいが楽しくていいのかな。ずっと教えるじゃ疲れちゃいますし、でも、何か得るものという意味では、IoTも含めて、うちで育てた子たちは、AIにはまって、TensorFlowの勉強会をうちの会社に来るぐらいですから、興味があって、勉強したら誰でもできる時代ですから、そういうサークル的な形で着地させられるといいなと考えています。

【安念部会長】 坂本さん、いかがですか。

【新座IoTの学び推進協議会（坂本）】 そういう意味では、このチャンスの子供みんなに与えたいという気は私があります。人口減少で労働力が不足しても、AI人材も必要で、足りない、足りないと言っているところで、アクセスできる子だけが体験して、突っ走っていく時代では段階的になくなって、そういう意味では、今回、児童館でこういうものを広げていくような視点をぜひ持っていただきたいなと思います。

今日、配付させていただいた資料で、あそびサイエンスという資料をうちのほうから入れております。これは阿南さんのところで取りまとめられた厚労省の遊びのプログラム開発というもので、数年前、平成28年ですか、取り組んだものです。その中の3本、プログラム開発をした中の1つが実は今回取り組んだプログラミングのクラブのベースになっているんですね。

児童館というのは、遊びとしてプログラミングを子供に触れさせますので、遊びという切り口では、小学校の低学年ぐらいにおいては非常に有効なんですね。そこでおもしろいと思った子が探究心を持って追求して行って、数多くのノーベル賞をとっている人はそうですね。ですので、早い時期にこういったもので、地域の中で全ての日本の子供に触れられるというチャンスを早期に確立するということが、もしかしたら学校でプログラミングが始まるよりも前段階として必要なんじゃないかと私は思っています。

というのは、このプログラミングを私たちがやり始めた際、阿部さんとかMITの話をいろいろと勉強させていただいたときに、高校生、大学生になって情報技術でやると、難しさと出会ってしまうんですね。楽しい前に難しいという、頭から入る限界というのがすごく実感として聞きました。まずは、楽しいんだ、おもしろいんだという体験を子供の中にながつつりと打ち込んだ後、難しいものを乗り越えていくという循環を子供に対して与えていかないと、結局、挫折していく人たちをたくさん生み出して行って、挫折でとどまればいいんですけど、プログラミング嫌いみたいなアンチな人まで生み出してってしまうという、順番を間違うとえらいことになってしまうなど。多くの技術の最前線にいる人たちは、多分、学校でプログラミングが始まることによって、そのアンチが生まれるんじゃないかという心配を今ものすごくされていると思います。学校でやれる限界というのがありますので、そこはいたし方ないところかな。そういう学校現場で教えていただくということも整備していくことは非常に重要だと思います。

けれども、ふくよかな地域のところで楽しい体験として、こういうものに子供が触れていくということが整備されていくという意味では、児童館に職員がおりますので、彼らをプログラミングをできるように仕立てていくということと、あと、機材の整備をするということが児童館の事業の整備として広がっていくと思います。箱があるということは非常に大きいことでして、コストがかからないということもありますし、そこに人もセットアップされていますので、プログラミングの担当者というのをうちもつくっていますけれども、そういった人材がもう既にいると、その人たちにスキルをプラスしていくということ

なので、非常に効率的かなと思います。

ただ、思うのは、こういう事業だと、児童館は、大型児童館と児童センターと児童館という3つの3タイプに分かれているんですね。最も地域に細かくあるのが児童館で小規模なもの。うちのように児童センターというのは、新座市の中で2つしかありません。大型というのは、大体県立の児童館です。県立の児童館はやることが多いんですね。結構がたいが大きい難しいものというのは。そうすると、県の中の1カ所でやられても、地域ICTクラブには絶対ならないんですね。ですから、児童館で展開する場合は、児童センターレベル以下のところで展開することを提案したいと思います。長くなって済みません。

【安念部会長】　そうですね。なるほど。

では、あとお一方ぐらい。では、どうぞ。

【福井県子どもプログラミング協議会(松田)】　福井県プログラミング協議会の松田といいます。

福野と一緒にかにロボコンを去年もやったりとかしていて、先ほどeスポーツ実業団という話が出ましたけれども、私も自分の会社を土曜日はあいていますので、開放して子供たちを30人ぐらい集めてプログラミング教室をやっています。そこでロボットを動かして、かにロボットの大会とかに出るんですけど、やっぱり自分の教室に通っている子供には負けてほしくないですね。だから、大会では、当日、親御さんも白熱するんですけど、企業としても、うちの会社に通っている子が負けるわけにはいかないという力の入り方が全然違うので、ぜひとも、企業さんにはスポンサーという形でどんどん入って、どんどん盛り上げてほしいなというのがいつも思っている次第です。

ちなみに、田舎のほうに、福井とかのど田舎に行っても、中小企業さんはやっぱり人材不足で、人が欲しい、人が欲しい、それこそコンピューターを使える、プログラミングできるような人材が欲しいと言うわりには、どうやればそういう人材が育つかというところまでをあまり考えてくれてない企業さんが多いので、そういったところは、例えば経産省さんとかにどんどん促していただいて、これから子供たちのプログラミングというのはこういうふうに大事なんだという啓蒙活動をしていただければなと思っています。

以上です。

【安念部会長】　ありがとうございました。伸びしろがたくさんありますよ。納税をまだ手書きでやっている企業というのは幾らだってあるんですからね。どうもありがとうございました。

大体時間になってしまいました。活発なご議論をいただきありがとうございました。堤さんのところ、私も田舎で育ったので、まちの子と同じようにというお母さんのお言葉、僕は胸にしみましたね。まさにそうなんです。ICTというのは溝を埋める作用があります。それはAppleさんのチャレンジと同じことですよね。ほんとうにどうもありがとうございました。

それでは、今日、頂戴したご意見は、特にガイドラインの作成についてはそうですが、今後の議論に反映してまいりたいと思いますので、事務局に取りまとめをお願いいたします。

それでは、最後に事務局から事務的な連絡をお願いいたします。

【坂本課長補佐】 事務局で、今後の部会の日程でございます。

第5回の会合を3月7日、第6回の会合を3月12日、第7回、こちらが最終回になりますが、3月18日、時間は全て10時から12時で予定してございます。年度末のお忙しいところ、大変恐縮ではございますが、ご出席のほど、よろしくをお願いいたします。

なお、この後、本会場におきまして、本日プレゼンをいただきました福野様より、プログラミングIchigoJamのワークショップが開催されます。所要時間は約1時間ということでございますので、構成員の皆様の中でご関心のある方は、ぜひご参加いただければと思います。よろしくをお願いいたします。

【安念部会長】 では、福野さん、よろしくをお願いいたします。皆さん、今日はどうもありがとうございました。